

11 謙渡後の飼育支援～アフターフォロー

謙渡された子犬たちが、適正に飼養されているかどうかを把握し、また、問題がある場合には適切に対処していくことも、謙渡事業における重要な要素の一つです。

不妊去勢手術の実施確認

謙渡された子犬の不妊去勢手術は非常に大切なことで、謙渡の際の誓約書で約束していますが、実際には、その実施率は決して高くはありません。

手術を確実に実施してもらうためには、謙渡後の確認等が重要になってきます（くわしくは、不妊去勢手術のページ（P22.23.24.25）を参照してください）。



報告書の提出～家庭訪問

謙渡後の飼育環境や健康管理などについて報告してくれるよう、謙渡時に用紙を渡し希望している自治体が多いようです。この報告書の提出がない、あるいは、内容に不安な点があるなどの場合は、電話や家庭訪問で問い合わせ、指導するのが望ましいですが、人員不足などで難しい場合は、ボランティアに協力をお願いしているところもあります。

【報告書の内容例】

- ①飼育場所について
室内・外飼い（庭に放し飼い／庭に係留／ベランダ／その他）
- ②現在飼っている動物の数について
譲り受けた動物を含めて（　　）
- ③登録・狂犬病予防注射について
犬鑑札番号（　　）／登録年月日（　　）
狂犬病予防注射番号（　　）／注射年月日（　　）
- ④不妊・去勢手術について
手術実施日（　　）実施病院名（　　）
- ⑤混合ワクチン実施状況について
実施年月日（　　）
- ⑥健康状況について
良好・不良（　　）
- ⑦譲り受けた犬について困ったことはありますか？
(　　)
- ⑧近況をお書きください
(　　)

電話や来所による相談

飼育方法や問題行動に関して、謙渡後に相談を受けることもあります。電話だけで解決が難しい場合、職員が家庭を訪問し指導を行うような自治体もあります。

和歌山県動物愛護センターでは、
「みんな集まれ！謙渡犬」という
イベントを年2回開催しています。
これは、謙渡された犬たちが家族
とともに、センターに里帰りして
セントラルのスタッフや、ボランティ
アのしつけインストラクターの
指導のもとで、しつけを基本にし
たゲームなどを楽しむイベント。
こうした機会があると、謙渡犬た
ちのその後を知ることができます。
また、こうした謙渡後の交流の中
から、謙渡犬（および猫）の飼い
主による、「わうくらぶ」という
組織も誕生。写真コンテストやし
つけの講演会などを通じて、会員
相互の親睦を図り、地域の模範的
な飼い主として、センターとともに
に正しい飼い方の普及をすること
を目的としています。こうした活
動が口コミで
広がり、犬を
飼うならセン
ターカラ…と
いう希望者を
増やすことに
つながってい
るようです。



和歌山県
「わうくらぶ」

事例⑧

Column

譲渡後のしつけ方教室



譲渡した犬を対象としたしつけ方教室を行う場合、その目的を再確認しましょう。

①愛護＝きちんとかわいがられているかの確認

譲渡された犬たちが健康であるか、愛情を持って育てられているか、飼い主を信頼し安心して家族の一員として暮らしているかどうか、しつけ方教室に参加している様子から確認することができます。

②適切な管理＝適正飼養されているかの確認

不妊去勢手術がすんでいるか、近隣に迷惑をかけることなくマナーを守って適切に飼育されているか、しつけ方教室の間に様々な情報を聞き出し、必要ならアドバイスすることができます。

この目的のためには、少なくとも譲渡後のしつけ方教室に一度は参加することを、譲渡の条件とするのも有効でしょう。

しつけ方教室で何を教えるのかも、再度考えてみましょう。

譲渡された犬たちが暮らしているのは、一般家庭です。

そこで求められているしつけとは、訓練競技会に出るための技術ではなく、人と犬、お互いの絆を深めるためのコツかもしれません。

「おすわり」や「ふせ」「待って」「ついて（ヒール）」などのトレーニングの前に、「名前を呼んだら飼い主を見る」「力強くではなく優しく犬の体をどこでも触れるようにする」といった基本的な絆づくりのプログラムを取り入れましょう。



また、甘噛みや、いたずら、ひっぱり、など、子犬にありがちな悩みに答えられるように、対処方法などをわかりやすく記したペーパーを配布したり、適切な道具を紹介するのもいいでしょう。